



身延山参拝のしおり

日蓮宗総本山  
身延山久遠寺

## 交通のご案内

**東京方面より** 電車で 新宿(JR中央本線=特急)→甲府/約1時間40分  
甲府(JR身延線=特急)→身延/約1時間  
東京(JR東海道新幹線)→新富士/約1時間15分  
富士(JR身延線=特急)→身延/約1時間  
※新富士-富士駅間は、バス・タクシー等をご利用下さい。

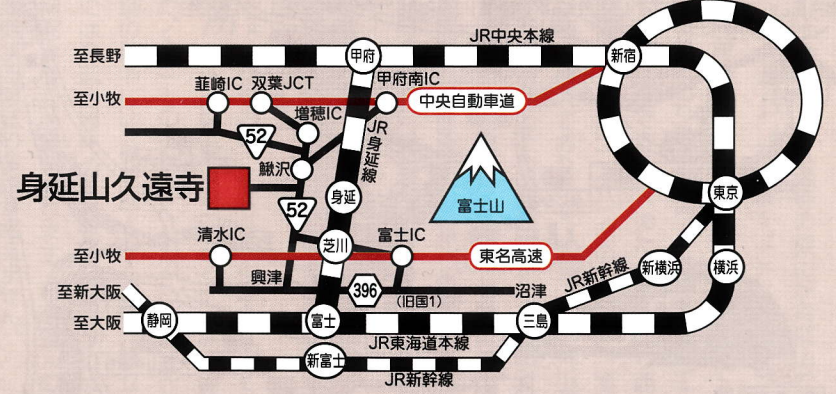
中央道で 東京(中央道)→甲府南IC→諏沢→国道52号→身延/約3時間  
東名高速で 東京→富士IC→県道396(旧国1)→県道10号→国道52号→身延/約3時間  
※富士川SASスマートIC(ETC専用)もご利用いただけます(大型車等を除く)。

**関西方面より** 電車で 新大阪(JR東海道新幹線)→静岡/約2時間30分  
静岡(JR身延線特急)→身延/約1時間20分  
中央道で 小牧IC→(中央道・中部横断道)→増穂IC→諏沢→国道52号→身延/約4時間30分  
東名高速で 小牧IC→清水IC→興津→国道52号→身延/約3時間  
※富士川SASスマートIC(ETC専用)もご利用いただけます(大型車等を除く)。

※JR身延駅から 身延山まで路線バスが運行しております。もしくはタクシー等をご利用下さい。  
※身延山バス停から 身延山久遠寺境内まで乗合タクシーが運行しています。

## 高速バス「身延山～南アルプス市～新宿線」のご案内

山梨交通(株)と、京王バス東(株)との共同運行により、新宿から身延山までを約3時間半でつなぎます。東京方面より身延山にご参拝の際には高速バスのご利用を是非ご検討下さい。詳細(運賃・運行時間・乗降場所など)のご予約は山梨交通ホームページ(<http://yamashikotsu.co.jp/>)



# 身延山久遠寺

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延3567  
電話 0556-62-1011 FAX 0556-62-1094  
URL <http://www.kuonji.jp/>

月刊誌「みのぶ」をご購読下さい。購読料 年間3,000円(送料共) 振り替え口座 00490-7-506

## 縁起

身延山久遠寺は、正式には身延山妙法華院久遠寺と称します。鎌倉時代に日蓮聖人によって開かれたお寺で日蓮宗の総本山であり、また祖師日蓮聖人のお山といふことから、祖山とも呼ばれております。

当時、身延山は甲斐国波木井郷・南部実長公の領地でありました。三度幕府をいさめながら、受け入れられなかった日蓮聖人は「三度聞き入られずば山林に身をかくせ」との古事にしたがい、実長公の招きによって文永十一年(一二七四)五月十七日に入山され、一か月の甲斐巡行の後六月十七日御草庵を建てて住まわれましたので、この日を身延山開闢の日としております。以来、在山九か年の間、日蓮聖人は身延山から一歩も外に出られることはありませんでした。

法華経は、一切経の総合経典と言われ、すべての人々の救済をめざした御経であります。日蓮聖人はその法華経に生涯をささげられました。晩年を過ごされたこの身延山は、ひたすら法華経の読誦と、法華経の精神を受け継ぐ門弟たちの教育に心血をそそがれた尊い地であることから、このお山をインドの靈鷲山と同様に、仏様たちがお住居になる所であると教示されております。

弘安五年(一二八二)九月八日病氣療養のため、また両親の墓参のため常陸国(茨城県水戸市加倉井)へ向け身延山を出立されました。しかし、その途上武蔵国池上(東京都大田区池上)において六十一歳の生涯を閉じられました。

御臨終に際し「いずへにて死に候とも墓をば身延の沢にせさせ候へく候」との遺言により御遺骨は身延山に奉ぜられ、「ご精神とともに祀られました。また、この山にお参りすることによって、人々は前世からの罪はたちまち消えさり、逆に善根を積むことになる」と教示され「日蓮が弟子檀那等はこの山を本として参るべし」との遺言をされております。

日蓮聖人入滅より実に七百有余年、廟墓と法灯は歴代住職(法主)によって、絶えることなく守護され今日におよんでおります。日蓮聖人が法華経を読誦され、法華経に生命をささげられた靈境 身延山久遠寺は、総本山として日蓮聖人門下の人々の篤い信仰を集め、また宗門のみならず広く日蓮聖人を仰ぐ人々の心の聖地として、日々参詣者の絶えることがありません。

## 身延山年中行事

●印は三大会 天童音楽大法要

- 一月一日〜三日 新年祝禱会
- 一月十三日 御年頭会
- 二月節分日 節分会・豆撒き
- 二月十五日 釈尊御涅槃会
- 二月十六日 宗祖御降誕会
- 三月彼岸中日 春季彼岸施餓鬼会
- 四月六日〜八日 釈尊御降誕会
- 四月二十八日 立教開宗会
- 五月三日〜五日 千部会
- 五月十二日 伊豆御法難会
- 六月一日 夏衣御更衣式
- 六月十五日〜十七日 身延山開闢会
- 六月中旬 御入山行列
- 七月十六日 孟蘭盆施餓鬼会
- 八月十八日 英靈施餓鬼会
- 八月二十七日 松葉が谷御法難会
- 九月十二日 龍口御法難会
- 九月彼岸中日 秋季彼岸施餓鬼会
- 十月一日 冬衣御更衣式
- 十月十一日〜十三日 御会式
- 十月二十五日 円師会
- 十一月十一日 小松原御法難会
- 十二月中旬の日曜日 七五三祝禱会
- 十二月三十一日 歳末読誦会

# 諸堂案内

## 本堂

明治八年（一八七五）二月の大火で焼失して以来、その再建念事業として、八十八世日滋上人代に再建を発願し、日康上人を経て九十世日勇上人代の昭和六十年五月に入仏落慶式が行われました。総坪数九七〇坪（三三〇一㎡）間口十七間半（三二二㎡）奥行二十八間（五十一㎡）。御本尊は江里宗平仏師の作で、外陣の天井画『墨龍』は加山又造画伯の畢生の力作です。なお地階の宝物館には久遠寺所蔵の宝物が展示されております。

## 総門

日蓮聖人が、身延入山の折、南部実長公とお会いになられた「蓬島」の遺跡に立つ門。二十八世日鏡上人が、寛文五年（一六六五）に建立したもので、門に掲げられる「開会閣」の扁額は、三十六世日潮上人の筆によるもの。開会とは、一切の人々は法華経の信仰によって仏となるという意味から、この門を入ることによって仏さまの世界に入っていくことを示しています。

## 菩提梯

二十六年日蓮上人代の寛永九年（一六三〇）に、佐渡ヶ島の住人、仁蔵の発願によって起工、完成したものです。高さ一〇四メートルで、三門と本堂を一字にむすぶ二八七段の石段は、南無妙法蓮華経になぞらえて七区画に分かれています。菩提梯とは覺りにいたる階段のことで、この石段を登り切ると、涅槃の本堂に至ることから、覺りの悦びが生ずることを意味しています。

## 五重塔

平成十六年に九十一世日光上人が再建を発願され、九十二世日総上人代の平成二十年（二〇〇八）に、明治八年（一八七五）以来一三三年ぶりに、創建当時の姿で復元建立されました。塔内初重には、尊四士の御尊像（体内には御仏舍利を奉安）と日蓮大聖人御尊像が勧請されております。間口三間四面、高さ三十九㎡。

## 三門

空・無相・無願の三つの門をへて、覺りに至ることから、本堂を覺りの世界に見立て、本堂にいたる正面のこの門を三門と言います。二十六世日蓮上人代の寛永十九年（一六四二）に建立されましたが、焼失し現在の門は明治四十年（一九〇七）に、七十八世日良上人によつて再建されました。掲げられる「身延山」の扁額は七十九世日慈上人の筆によるものです。

## 祖師堂

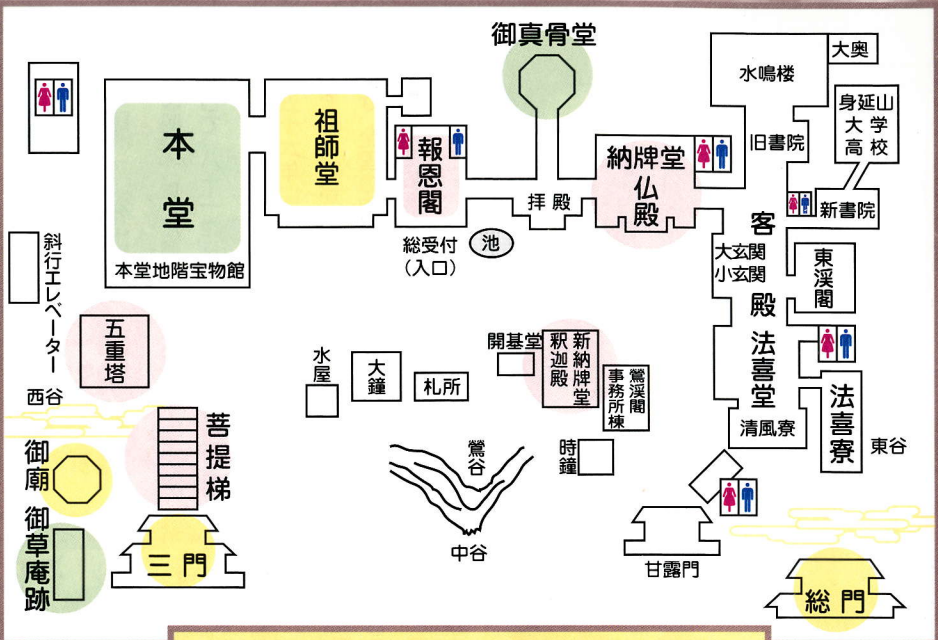
祖師日蓮聖人を御祀りするお堂です。入口には祖師の御魂が棲んでおられるという意味の「棲神閣」（七十四世日鏡上人筆）と書かれた扁額が掲げられています。明治八年（一八七五）一月の大火で焼失し、七十四世日鏡上人代の明治十四年に再建されたものです。中央の宮殿には日蓮聖人像が御祀りされており、内陣虹梁に掲げられている「立正」の扁額は、日蓮聖人の立正大師号にちなんで、昭和六年に天皇陛下より賜わった勅額です。

## 御真骨堂

日蓮聖人の御真骨を奉安する御真骨堂は、白亜の八角堂と拝殿からなっております。十一世日朝上人代の文明六年（一四七四）に、西谷から現在の地に移築、増築されますと、法主猊下の守塔の任に配慮して、御真骨も現在の地へ奉遷せられました。現在の八角堂ならびに拝殿は、七十四世日鏡上人代の明治十四年に再建されたもので、八角堂内の荘厳は善美をつくしたものです。

## 報恩閣

身延山久遠寺の総受付です。立教開宗七五〇年の慶讃事業として九十一世日光上人の発願により平成十四年三月に落成しました。入口前庭には、樹齢四百年を経た枝垂れ桜が参拝者の目を楽しませております。



身延山久遠寺 諸堂 案内図

## 仏殿・釈迦殿 両納牌堂

仏殿は昭和六年、日蓮聖人の六百五十遠慮を記念して、八十一世日布上人の代に建立されたものです。釈迦殿は、八十八世日滋上人代の昭和五十六年に建立されたもので、地上六階建てで最上階が釈迦殿となっております。両殿には、全国の御信者の御志納になった御分骨・御位牌を安置しております。

## 御草庵跡

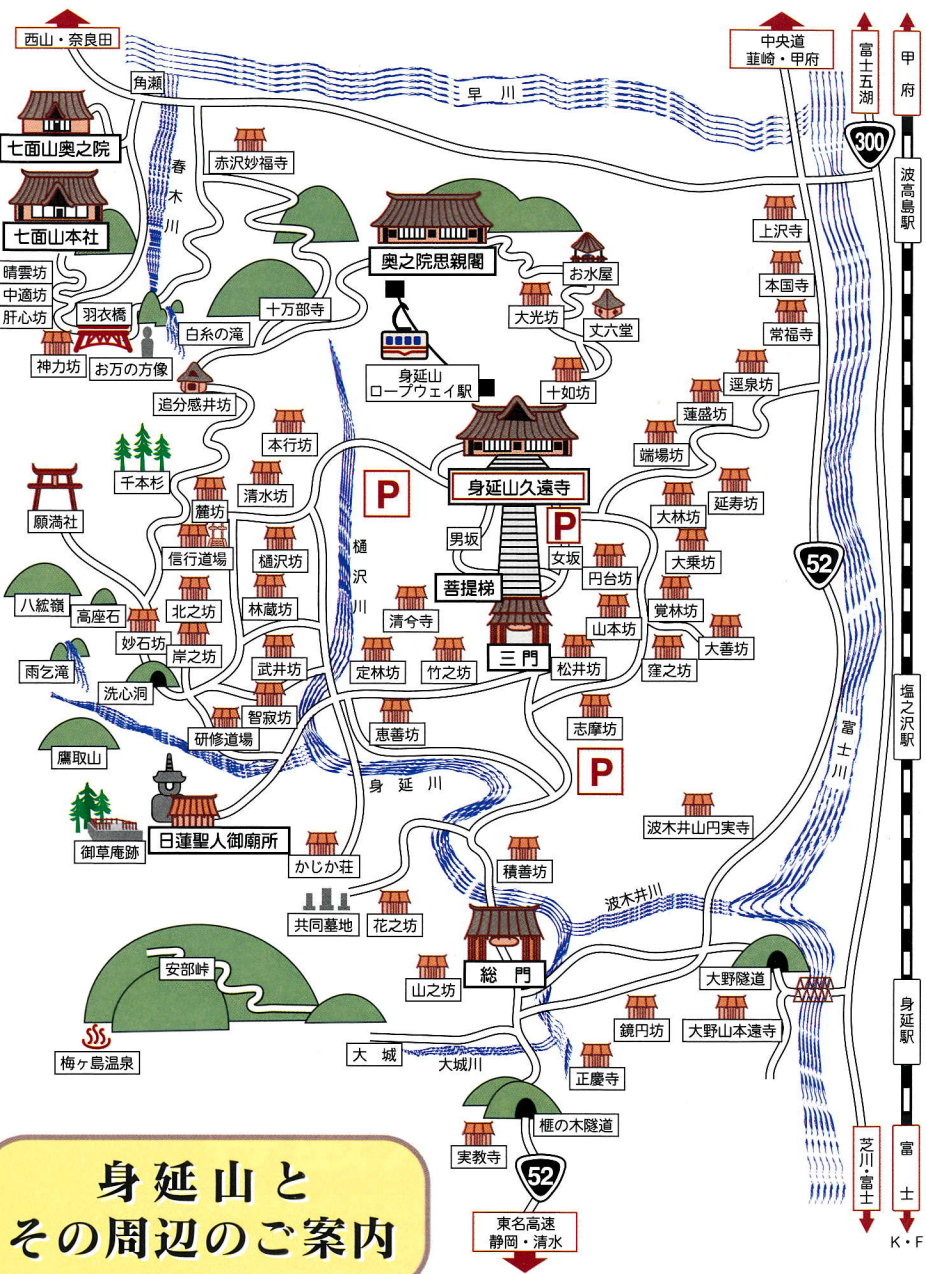
御廟所左手の老杉のもと、玉垣に囲まれた所が、日蓮聖人が九か年御隠棲された御草庵の跡地であり、身延山久遠寺発祥の地であります。日蓮聖人は、文永十一年(一二七四)五月十七日身延に入山され、弘安五年(一二八二)九月八日まで、ここに起居され法華経の読誦と門弟の教育に終始しました。

## 思親閣・七面山

久遠寺の裏山が身延山で山頂は、海拔二一五三mあります。ここは日蓮聖人が登山せられ、故郷とある千葉県小湊の御両親様を偲び、追慕された霊跡の地でありますので、奥之院とよばれ思親閣が建てられております。三門より徒歩で五十丁(五、五km)ロープウェイを利用しますと七分で登詣できます。また身延山より西の方角の山を一つ越えた彼方に七面山があります。海拔一九八二mの山頂には、法華経信徒の守護神であります七面大明神が奉祀されております。七面山は、徳川家康公の御側室でありました養珠院お万の方によつて女人禁制が解かれたお山で、山頂の敬慎院には、二千名もの参詣者が参籠できる施設があります。七面山は山頂まで徒歩での登山となります。春秋の彼岸の中日には富士山頂からの御来光を拝することができ、その神々しさは筆舌には尽くしがたいものがあります。

## 御廟所

西谷の地にあり、杉の磨丸太づくりの拜殿、奥の八角塔は、日蓮聖人の「いつくにて死に候とも、墓をば身延の沢にせさせ候べく候」との御遺言にしたがって建立された、日蓮聖人の廟墓です。八角塔の塔中には、日蓮聖人の入滅時に建立された五輪の墓が収められ、右手には身延山歴代のお墓が並び、左手には富木常忍の母、阿仏房日得上人、南部実長公の墓があります。日蓮聖人の廟墓ですので祖廟とも称し、恋慕渴仰する信徒の参詣が絶えません。



## 身延山とその周辺のご案内